

高崎市立高崎経済大学附属高等学校 学校評価一覧表①

(令和4年度版)

(様式1)

羅 針 盤			方 策	第1回点検・評価			第2回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 大学、NPO法人、企業等外部との連携により、充実した教育活動をしようとするか。	① 外部機関との連携により充実した教育活動をしていると感じる生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> ・高経大、県内外の企業、NPO法人DN A、群馬大学、県立女子大学、前橋工科大学、足利大学、ぐんま天文台など外部機関との連携やその実践内容を分かりやすく伝える。 ・海外に行けない今だからこそできる海外交流の機会を生徒に提供する。特に、ZOOM等遠隔会議システムを用いた交流会を充実させる。 ・部活動や探究学習を通して社会に貢献できる資質を養うとともに、成果を実感できる機会を設ける。 ・スタディサプリや予備校研修、授業アンケート等を活用し、授業改善に努める。 ・全員の前で発言するだけでなく、ICTツールを用いた発表についても活用を促す。 ・授業参観等を通して、他の教員がどのように主体的、協働的な学習に取り組ませているかを知り、自身の授業改善の一助とする。 	A	A	84%の生徒が高大連携に努めていると回答している。TSUBASAプロジェクトの活動を充実させるとともに、「TSUBASAプロジェクト通信」やWebサイトを用いて学びを共有していく。	B	A	82.4%の生徒が高大連携に努めていると回答している。第1回目と比較するとわずかに数値が下がっているが、大学をはじめ様々な機関と連携している。連携することで生徒にどのような利点があるか実感させる必要がある。
	2 国際交流の機会をつくり、国際理解に努めていますか。	② ZOOMを用いた海外との交流会やエンバワメントプログラムなど、国際理解の場があると感じる生徒が80%以上である。		A	A	84.2%の生徒が国際交流の機会が用意されていると回答している。実際に国際交流企画に参加する生徒の数も増やしたい。	B	A	85.5%の生徒が国際交流の機会が用意されていると回答している。オンラインも含め引き続き国際交流の機会を提供していきたい。
	3 キャリア教育の充実に努めていますか。	③ 社会に出て役立つ能力・態度が身に付いたと感じている生徒が80%以上である。		A	A	85.4%の生徒がキャリア教育が充実していると回答している。生徒がさらに実感できるように努める。	B	B	86.7%の保護者が充実していると回答しているのに対し生徒は81.6%である。生徒が実感できる進路行事を年度当初に計画する。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 工夫して分かりやすい授業を行っていますか。	④ 授業に対する、生徒の評価を年2回実施し、授業改善に生かしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・担任等による面談を実施し、日々の生活に目的意識を持ち、自律的に行動できるよう支援する。 ・校門指導、街頭交通指導、交通安全教室等の実施。自転車通学許可条件として、ヘルメット所有を追加し、重大な交通事故の未然防止を図る。 ・学校いじめ防止基本方針に則り、情報の共有化及び教育相談アンケート等、いじめ防止のための各種プログラムを実践する。 ・コロナ禍でもICT機器等を活用し、進路行事を開催し、行事後には必ずアンケートを取り、今後の策に活かす。 ・大学見学や合格体験発表会などの行事を通し、進路意識を喚起し、定期的に進路希望調査を行うことで、自己の目標を明確にする。 ・classiやホームページを活用し、迅速かつ丁寧な情報発信を行う。 ・案内をWebに掲載し周知するとともに、GoogleFormsを活用することで、申込の簡略化を図る。 ・父母の会との連携を図り、父母の会や学校評議員会の提言を今後の活動随時反映する。 ・教職員、生徒双方から定期的にICT機器の効果的な活用方法を発信し、情報共有を図る。 ・教職員・保護者とも、発信した通知をいつでも確認できるよう、システムの運用を工夫する。 ・生徒同士が「いじめ」や「いじめ」のない学校づくりがされていると回答した。生徒主体の活動を継続し、いじめを防止する。 ・避難訓練に関し、避難経路の確認や改善を適宜検証する。 ・定期的な施設点検を実施し、危険箇所を発見し無くす。 	A	A	89.8%の生徒が分かりやすい授業を行っていると感じている。授業アンケートの結果や研修等を活用し、授業改善を継続していく。	B	A	90.3%の生徒が分かりやすい授業を行っていると感じている。一方、学力向上に役立っていると感じている生徒は88.8%であり、生徒の力をより伸ばすための授業改善に継続的に取り組む必要がある。
	5 発表する場面で、表現力の育成に努めていますか。	⑤ 生徒の80%以上が自分の意見や考えを発表する機会があると感じている。		A	A	89.2%が自分の意見等を発表する機会があると感じている。今後は、内容をより深め、ICTツールを活用した発表について探究する。	A	A	86.4%の生徒が自分の意見を発表する機会があると感じている。物事を深く理解するには、他者に説明することが効果的であるということ職員が理解し、実践できるようにする。
	6 主体的・協働的な学習を取り入れていますか。	⑥ グループ学習やペア学習を取り入れている授業が80%以上である。		A	A	92.3%の生徒が主体的・協働的な学習に取り組んでいると感じている。今後は、他の教員の授業を見学する機会を増やし、授業改善に努めたい。	A	A	91.1%の生徒が主体的・協働的な学習に取り組んでいると感じている。ICTツールの活用についての情報共有を行うとともに、主体的・協働的な学習を実践しやすい分野を見据えて、年間指導計画を立てる。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7 規則正しい生活習慣を身に付けさせていますか。	⑦ 安易な欠席・遅刻・早退をさせない指導を徹底し、学年平均の遅刻者数(人/日)を3以下にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でもICT機器等を活用し、進路行事を開催し、行事後には必ずアンケートを取り、今後の策に活かす。 ・大学見学や合格体験発表会などの行事を通し、進路意識を喚起し、定期的に進路希望調査を行うことで、自己の目標を明確にする。 ・classiやホームページを活用し、迅速かつ丁寧な情報発信を行う。 ・案内をWebに掲載し周知するとともに、GoogleFormsを活用することで、申込の簡略化を図る。 ・父母の会との連携を図り、父母の会や学校評議員会の提言を今後の活動随時反映する。 ・教職員、生徒双方から定期的にICT機器の効果的な活用方法を発信し、情報共有を図る。 ・教職員・保護者とも、発信した通知をいつでも確認できるよう、システムの運用を工夫する。 ・生徒同士が「いじめ」や「いじめ」のない学校づくりがされていると回答した。生徒主体の活動を継続し、いじめを防止する。 ・避難訓練に関し、避難経路の確認や改善を適宜検証する。 ・定期的な施設点検を実施し、危険箇所を発見し無くす。 	A	A	4月～7月は1年1.0、2年1.6、3年3.0人/日であり、目標を達成した。今後も個別面談など、丁寧な指導を継続する。	C	C	8月～12月は1年1.6、2年3.1、3年4.2人/日であった。心身の不調による遅刻が多い。手洗い、マスク着用、十分な睡眠等を意識させ、体調不良による遅刻を防ぐ。
	8 交通規則を遵守し、交通事故を起こさないようにさせていますか。	⑧ 重大な交通事故を未然に防ぐ。警察署等と連携し交通安全運動を年3回以上実施し、ヘルメット着用率100%を目指す。		B	B	校門指導やマナーアップ運動、交通安全教室などを実施し、ヘルメット着用を指導した。交通規則を順守していると回答した生徒は92.7%であった。	B	B	交通規則を順守していると回答した生徒は91.7%、保護者は93.5%であった。毎月実施している保護者との街頭交通指導を継続し、被害事故を含め、交通事故の防止を図る。
	9 学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。	⑨ いじめ発生件数0を目指した教育活動に取り組む、万が一いじめが発生した場合には組織的にその解決を図る。		A	A	4月～7月のいじめ発生件数は0であった。今後は教育相談アンケートやいじめに関する職員研修の実施など、いじめの早期発見と防止に向けた活動を継続する。	B	A	8月～12月のいじめ発生件数は1であった。定期的な教育相談アンケートや職員研修の実施に加え、毎月いじめ防止推進会議を開催し、情報共有と迅速な対応の徹底を強化する。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	10 生徒の進路意識の高揚に努めていますか。	⑩ 大学見学や職業人講話、進路講演会等の進路行事に積極的に参加し、自己評価できる生徒が80%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> ・classiやホームページを活用し、迅速かつ丁寧な情報発信を行う。 ・案内をWebに掲載し周知するとともに、GoogleFormsを活用することで、申込の簡略化を図る。 ・父母の会との連携を図り、父母の会や学校評議員会の提言を今後の活動随時反映する。 ・教職員、生徒双方から定期的にICT機器の効果的な活用方法を発信し、情報共有を図る。 ・教職員・保護者とも、発信した通知をいつでも確認できるよう、システムの運用を工夫する。 ・生徒同士が「いじめ」や「いじめ」のない学校づくりがされていると回答した。生徒主体の活動を継続し、いじめを防止する。 ・避難訓練に関し、避難経路の確認や改善を適宜検証する。 ・定期的な施設点検を実施し、危険箇所を発見し無くす。 	A	A	生徒92.0%、保護者86.9%が進路意識の高揚に努めていると回答している。引き続き、進路意識が向上する企画、運営に努める。	A	A	行動規制のない中で、昨年以上に進路行事を予定通り実施できた。生徒93.7%、保護者81.3%の数字にも表れている。三年間でどのような力を生徒に付けさせたいかを明確にして、保護者にも情報発信を積極的に行う。
	11 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑪ 自分の適性を理解し、進路に関する情報を自ら得ようとする生徒が、80%以上である。		A	A	生徒88.9%、保護者80.4%が自分の進路に関して、真剣に考え取り組んでいると感じている。1年生から進路について考える機会を増やすことが課題となる。	A	A	学年があがるごとに進路について真剣に考えるようになってきている。1、2年の時から、自分の進路について真剣に考える場面を二者面談等を通して増やす。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	12 保護者や地域住民に向けて情報を積極的に発信していますか。	⑫ 保護者の80%以上が学校は積極的に情報を発信していると感じている。	<ul style="list-style-type: none"> ・classiやホームページを活用し、迅速かつ丁寧な情報発信を行う。 ・案内をWebに掲載し周知するとともに、GoogleFormsを活用することで、申込の簡略化を図る。 ・父母の会との連携を図り、父母の会や学校評議員会の提言を今後の活動随時反映する。 ・教職員、生徒双方から定期的にICT機器の効果的な活用方法を発信し、情報共有を図る。 ・教職員・保護者とも、発信した通知をいつでも確認できるよう、システムの運用を工夫する。 ・生徒同士が「いじめ」や「いじめ」のない学校づくりがされていると回答した。生徒主体の活動を継続し、いじめを防止する。 ・避難訓練に関し、避難経路の確認や改善を適宜検証する。 ・定期的な施設点検を実施し、危険箇所を発見し無くす。 	A	A	生徒82.8%、保護者83.2%が積極的に情報を発信していると感じている。引き続き、迅速かつ丁寧な情報発信に努める。	A	A	積極的に発信していると感じている保護者が85.0%であった。引き続き、ClassiやWebページを活用し、積極的な情報発信に努める。
	13 授業公開、学校公開に努めていますか。	⑬ 本校保護者だけでなく中学生やその保護者対象の授業公開等で合計二千人以上の参加を得る。		B	B	3年ぶりに本校保護者対象の授業公開が実施できた。今後は、中学生対象の学校説明会、学校公開を実施する予定である。	B	B	中学生対象の学校説明会、芸術コース体験授業等を実施した。学校が授業公開等に努めていると回答した生徒は83.6%、保護者は81.3%であった。今後は、本校保護者に向けて開かれた教育活動を展開していく必要がある。
	14 保護者や地域住民から信頼される高経附の生徒を目指していますか。	⑭ 地域住民や生徒の保護者の80%以上が、高経附の生徒や本校の教育活動を評価している。		A	A	生徒84.7%、保護者90.8%が地域から信頼されるよう努力していると回答。更に、地域から信頼されるよう、指導を継続する。	A	A	生徒の83.6%、保護者の91.3%が信頼されるよう努力していると回答した。高い信頼を継続できるよう更に指導を継続する。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	15 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑮ 生徒の80%以上が、ICTを活用した学習を行うことで理解が深まったと感じている。	<ul style="list-style-type: none"> ・classiやホームページを活用し、迅速かつ丁寧な情報発信を行う。 ・案内をWebに掲載し周知するとともに、GoogleFormsを活用することで、申込の簡略化を図る。 ・父母の会との連携を図り、父母の会や学校評議員会の提言を今後の活動随時反映する。 ・教職員、生徒双方から定期的にICT機器の効果的な活用方法を発信し、情報共有を図る。 ・教職員・保護者とも、発信した通知をいつでも確認できるよう、システムの運用を工夫する。 ・生徒同士が「いじめ」や「いじめ」のない学校づくりがされていると回答した。生徒主体の活動を継続し、いじめを防止する。 ・避難訓練に関し、避難経路の確認や改善を適宜検証する。 ・定期的な施設点検を実施し、危険箇所を発見し無くす。 	B	A	職員向けのICT活用研修を実施する。また、Classiや情報委員会通信等を用いて効果的な活用実践について紹介する。	B	A	ICT活用研修は実施できていない。相互授業参観等によって、それぞれの先生方が活用方法について情報交換し、それが各授業に生かされている。ICTを活用しやすい環境の整備に努めたい。
	16 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑯ 保護者の80%以上がICTを活用することで学校からの通知が確認しやすくなったと感じている。		A	A	Classiのグループ編成を再検討し、必要な通知が他の通知に埋もれてしまわないようにする。	B	A	かなり多くの情報がClassiを通して発信されているため、情報発信の交通整理をしていく必要がある。
※ 安心安全な学校づくり	17 生徒主体で「いじめ」のない学校づくりを推進していますか。	⑰ 生徒の80%以上が、生徒主体で「いじめ」のない学校づくりがされていると感じている。	<ul style="list-style-type: none"> ・classiやホームページを活用し、迅速かつ丁寧な情報発信を行う。 ・案内をWebに掲載し周知するとともに、GoogleFormsを活用することで、申込の簡略化を図る。 ・父母の会との連携を図り、父母の会や学校評議員会の提言を今後の活動随時反映する。 ・教職員、生徒双方から定期的にICT機器の効果的な活用方法を発信し、情報共有を図る。 ・教職員・保護者とも、発信した通知をいつでも確認できるよう、システムの運用を工夫する。 ・生徒同士が「いじめ」や「いじめ」のない学校づくりがされていると回答した。生徒主体の活動を継続し、いじめを防止する。 ・避難訓練に関し、避難経路の確認や改善を適宜検証する。 ・定期的な施設点検を実施し、危険箇所を発見し無くす。 	A	A	生徒89.1%、保護者89.7%が「いじめ」のない学校づくりがされていると回答した。生徒主体の活動を継続し、いじめを防止する。	A	A	生徒85.4%、保護者91.3%が「いじめ」のない学校づくりがされていると回答した。各学級での話し合い等、生徒主体の活動を継続する。
	18 防災対策を職員・生徒に徹底していますか。	⑱ 大地震や火災が発生した際に、全ての職員・生徒が適切な対応をとることができる。		A	A	避難訓練を実際の経路を歩かせ確認した。消防署員からも注意事項など徹底し生徒、職員に伝えた。	A	A	職員・保護者・生徒の評価の評価が90%弱であるが、更なる具体的な対策や準備を強化したい。
	19 校内の施設の安全点検に努めていますか。	⑲ 校内施設の不備による事故の発生は0件とする。		A	A	事故発生は0件。施設の老朽化が進んでおり定期的安全点検を実施しながら定期的な報告を行っている。危険箇所修繕の必要がある。	B	B	事故発生は0件。施設の老朽化が進んでおり定期的安全点検を実施しながら定期的な報告を行っている。危険箇所修繕の必要がある。